

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000088		
法人名	株式会社 サザンツリー		
事業所名	グループホーム サザンツリー		
所在地	兵庫県姫路市飾西330番地		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、「尊厳のある生活」、「静かに見守る介護」、「地域とともに生きる」、「笑顔あふれる家庭的なホーム」を理念として掲げている。センター方式を取り入れて入居者と深く関わりを持ち、その人らしさや個性を大切に、どうしたらその人らしい生活が送れるのかについて、職員間で、又家族とも話し合いを重ね、その人の気持ちに添ったケアを心がけている。
東ユニットでは、全員が何かしらの役割を持ち、利用者と職員が共に支え合う関係を築き、利用者同士が誘い合ったり、思いやりを持てるようになってきて、和やかな時間が流れている。
西ユニットでは、楽しく参加できるようなレクリエーションを取り入れて、入居者と職員の笑顔が絶えない温かく穏やかな生活の場でありたいという信念を持って取り組んでいる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域とのつきあいを従来以上に積極的に推し進めていくために、事業所理念に「地域とともに歩む」を追加し、日々、事業所全体の意識付けと実践に取り組みされている。利用者のお一人からは「トイレ、洗面所の手拭きタオルを朝、昼、晩の3回交換しています」と伺い、その生き生きとした表情が印象的であった。利用者のそれぞれの力に応じて分担し、リビングなどの掃除も日課としている。これまで各家庭で過ごされた日常生活をそのまま継続出来る自立支援を基本視点に、その方によりそったケアの実践に取り組まれている。自然に恵まれた環境の中で、地域の中にすっかり根付いた事業所として地域住民の信頼を得ている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲げた理念を毎朝の朝礼で唱和し、常に意識の下に置いている。又、地域の中で生活していくというテーマを持ち、計画・実践している。	「地域とともに生きる」の項目が追加され、事業所の役割をわかりやすい言葉で表現されている。毎朝の朝礼で唱和することで職員の意識化が図られ、言葉かけ、態度、記録等に反映する取り組みとなっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と散歩中に交わす挨拶、野菜等を頂いたり、祭神輿の見学、マラソン大会の応援、公民館のふれあい喫茶の利用、ごみネットの片付け等、日常的なかかわりから季節行事に至るまで様々に交流している。	地域住民の一員として、地域とつながる取り組みを継続することによって、地域の中にすっかり溶け込んでいる。認知症サポーター養成研修に職員がキャラバンメイト(講師)として参加し、認知症ケアの実践経験を生かした取り組みも行われている。	地域との交流をさらにパワーアップするため、地域で必要とされる活動や役割を担っていく双方向のつきあいについて、地域包括支援センターとの連携も含め、新たな第一歩を期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域見守り訪問員の実習生の受け入れやキャラバンメイトとしての活動をしている。地域包括センターの職員と共に、地域の人々に向けて何ができるかの話し合いを始めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状況やケアの取組み状況について報告をしている。参加メンバーを交代し、家族の参加を増やすなどして、運営推進会議を活かせるように取組みを続けている。	2か月毎に定期開催している。自治会副会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター代表から積極的な発言が続いて、メンバーを交代した家族代表からは、地域の皆さんからの協力に感心する声も上がっている。門扉の施錠についても話し合っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要時に連絡を取り、実情を伝えたり相談をしたりしているが、十分だとは言いえない。また、市には定期的に発行するホーム便りを届けている。	市内17事業所の連絡協議会に、市介護保険課から参加があり情報提供もあった。連携については外部評価でも重要視されていることから努力しているが、協働関係には厚い力ベを感じている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権尊重と安全確保のどちらを優先させるかで、利用者の安全を確保できないリスクが著しく高いと予測される場合は、門扉を施錠せざるを得ないのが現状である。この対応については、家族の同意と理解を得ている。	門扉の施錠についても身体拘束にあたることについて認識し、運営推進会議でも問題提起し議論している。帰宅願望が強い利用者には職員と一緒にいていくこともしているが、職員は常に緊張を強いられる。安全確保を優先させやむなく施錠している。	「門扉の施錠」については、引き続き検討を望む。利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するために、例えば、日中2～3時間でも開錠する等の試みの検討を期待したい。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームにおいては、充足したスタッフが勤務し、ゆったりした空間もあり、広義、狭義の意味においても、虐待といった案件はない。家族・利用者とのよりよい深い信頼関係を築き、連携を保つ努力をしている。	職員は常にケアを振り返り、「尊厳」を基本的に位置づけることを理解している。高齢者虐待防止法についての学習会はまだ取り組んでいない。	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が高齢者であり、且つ、認知症である為、家族の支援、事業所の支援なしには生活し得ないことをよく理解し、関係機関への橋渡しをしている。又、成年後見制度を利用しようとする家族への支援を行っている。	当事業所に住所を移した利用者があり、成年後見制度を活用することを検討している。その親族に情報提供することは必要であるという認識はもっている。	高齢者介護のキーワードである「尊厳」について、深い理解と実践が求められている今日、権利擁護に関する法律や、制度について、系統的な研修会の取り組みを期待する。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について疑問がないように十分配慮して説明をしている。経済的な不安がある利用者については高額介護サービス費申請等の手続きについての説明をしている。料金改定等についても説明をしている。	契約時は重要事項説明書を一時間以上かけて丁寧に行っている。事業所ができること、できないことも明確に説明している。特に経費等については十分説明しているが、若干の理解不足も生まれている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの在り方等、利用者や家族からの意見を汲み上げる為交流会を開催し、ホームの家族性も生まれている。推進委員に家族を迎え、忌憚のない意見を聞き、よりよく改善していこうとする姿勢を持っている。	家族との連携・交流は円滑に機能している。交流会、茶話会、バス旅行等には家族の参加者も多く、家族同士で、共通認識も深まり結びつきも深まっている。ホーム便りも定期発行している。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員出席の下開く会議は、多くの問題点を考察していく上で、よい機会となっている。常に職員との会話を心掛けていて、よいと思われる提案は試行している。	事業所運営はオープンをモットー（座右の銘）にしており日頃から管理者と職員の垣根はないと自負している。月に1回の職員全体会議では自発的な意見が出され前向きに話し合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	規模の小さいホームの利点が活かされている。代表者とすぐ近くで意見交換がなされている。働きやすい職場であると自負しているが、職員自身もプロの介護者として日々精励するよう指導している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量については大方を把握している。人間としても成長していくよう指導している。その上に内外の研修をよく取り入れ、個々のスキルアップに繋げていくよう考えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修への参加を促し、実行している。そこでの交流が他者を知るという意味があり、自己を振り返ることにもなっている。そこで得たものをホームで発表し、実践に繋げる努力をしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの相談がほとんどであるが、本人の気持ちを知って、不安なく馴染めるようすむる為に、本人にホームの見学に来てもらったり、自宅や利用中のデイサービス等に面会に出向いたりして関係作りをしている。			
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとを聞き取り、家族と本人の思いが違ふこと、また、入居となると、家族側の気持ちの上で大きな葛藤があることを理解しながら、家族の気持ちを受け止めて関係作りをしている。			
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時まず必要としている支援」を見極めることは難しいが、居宅のケアマネジャーや家族と相談しながらサービスを導入している。初期の段階では不安なく馴染め、安心して生活できるように特に配慮している。			
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やおやつ作り、カレンダー作り、手芸作品作り等様々な場面において、利用者と職員が一緒に作ることを楽しみ、できたことを喜び、達成感を感じている。家事全般において利用者から教わることも多い。			
19			本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時に必ずケース記録に目を通して頂き、日々の生活の様子を十分に知って頂けるように説明を行っている。家族の負担にならない程度に交流会を開催し、意見交換の場を設けている。			
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方の面会や外食の機会も多い。家族の協力の下、馴染みの美容院の利用、飼っていた猫を見に自宅に帰ったり、教会に行くなど、これまでの馴染みや友人との付き合いを保ちながら生活している。	利用者のみなさんは、お元気な方が多く、今まで通りの生活習慣に添って継続的な交流が出来ている。家族等の訪問が少ない利用者は寂しさを感じる場面もあり、本人を支えながら各方面にアプローチしている。		
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員参加のレクリエーションなどで利用者同士の交流を深めている。食事の配膳時や散歩等の折に、利用者同士が声かけ合うことで思いやりや支えあうよい関係が保てるようになってきている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の関係者に本人の好みや習慣、生活状況、ケアの取り組み等の情報を詳しく伝え、住み替えによるダメージが最小限になる配慮をしてもらえるように働きかけている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるよう話し合いをしている。外出の希望が多いので、月2~3回は喫茶等の外出を取り入れ、楽しみのある生活を目指している。	センター方式によるシートの活用で一人ひとりのライフヒストリー(生活歴)を把握し、生活を支えるアセスメントを行っている。一人で買い物を楽しみたい利用者についても適切な支援が続けられている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方、サービス利用に至った経過等について家族や本人から伺ったり、自宅に訪問する等により情報収集している。これまでの生活を把握した上で、現在の生活を捉えるように努めている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できなくなったことにこだわらずに、できることを持続できるよう、居室担当を中心としてケアに工夫をしている。個々に合った手作業、軽作業を実施している。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回サービス会議を実施し、問題点や今後の取り組み方を話し合っている。家族の面会時には要望や意見を尋ね、1ヶ月に1回モニタリングを行って、介護計画に活かしている。	介護計画は3カ月毎に作成している。毎日のケア日誌からモニタリングは毎月行い、介護計画に反映させている。家族には面会時ケース記録を見ていただき意見・要望を伺っている。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、家族や職員がいつでも読める状態にしている。センター方式を取り入れ、一人ひとりの目標を持ったケアに努め、介護計画に活かしている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独のグループホームであるが、地域との関わりを大切に、ふれあい喫茶や盆踊り大会等地域行事へ参加したり、幼稚園児との交流、ボランティアの協力行事を行う等、個々のニーズに添って支援に努めている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアを受け入れている。行きつけの美容院やスーパーなどを利用し、地域行事に参加することで地域に根ざしたホームを目指している。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添って医療機関を選択している。受診時には適切に情報を提供することで連携を図るようにしている。歯科については希望があれば訪問歯科の利用につなげている。	かかりつけ医への受診は緊急時は職員が同行するが、原則、家族が同行支援を行っている。受診結果の情報のやりとりもスムーズに行っている。又、協力医療機関からは月1回の往診体制もとっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置していないが、職員が利用者の表情や体調観察を行い、家族に相談しながら医療機関につなげている。医療機関には適切に受診できるよう情報を提供している。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に本人の情報を提供し、環境が変わることについてのダメージが軽減するよう働きかけている。また、見舞いに行き、経過を見守り、スムーズに退院できるように医療機関や家族との話し合いをしている。	入院する際は不穏になる場合があり、医療機関に対しては情報提供を詳細に行っている。家族とも回復状況等について情報交換しながら速やかな対応を行っている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前の早い段階から、職員間で話し合いを持ち、どこまでの支援ができるかを検討している。家族には都度本人の状況を伝え、当ホームでできること、できないことについての方針を説明している。家族の希望等により他の施設等を紹介している。	重度化やターミナル等については重要事項説明書に明記し、利用者、家族に説明している。事業所の現状でどこまで支援できるか見極めが必要であるが利用者、家族の希望には柔軟に対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や対応のマニュアルがあり、会議の時に見直し、職員それぞれが冷静に対応できるよう話し合いをしているが、実践力は十分だとはいえない。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団や地域住民からの協力が得られるようになってきている。消防所の協力を得て、避難訓練等を実施しているが、職員側の備えが十分だとはいえないので、今後もう一に備えての体制を整えたい。	通報訓練は研修を随時行っており、器具の点検は消防署の協力で年2回実施している。避難訓練については実施の方向でシュミレーションを行っている。地域の協力体制も運営推進会議で話し合っている。	災害はいつ起こるか分からないという不確定なものだけに、いざという時にあわてず確実に避難ができるように、職員と利用者が一緒に、訓練を繰り返すことは必要である。取り組みを期待する。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	助言や声かけをするときは利用者が言った事を一旦受け止めてから、対応している。更衣やトイレ介助をする時は、他者から見えないように配慮している。	利用者をまず受容することに留意し、言葉かけについては日常的に確認し、改善を試みている。品格のある言葉、立ち居振る舞い、さりげないケアを心がける等、対応に配慮している。	
37			利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉だけではなく、表情や全身の反応やジェスチャーで希望や好みをつかみ、対応している。		
38			日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一つひとつゆっくりと行動する利用者には、そのペースに合わせ、決して焦らせたり急がせたりしないような声かけや対応をしている。		
39			身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時見守りや介助が必要な場合は利用者にもどの服を着るかを選んでもらっている。又、家族の希望もあり、外出時には化粧品を勧めている。		
40	(19)		食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者と一緒にいき、切ったり、味見や盛り付けをしてもらったりしている。作り方がわからない時は利用者から教わりながら作っている。片付けも一緒にしている。	食事の一連の作業は職員が見守りながら、利用者がそれぞれの役割をもって力を発揮している。利用者は主婦としての顔になり、手際も良く、栄養バランスも整ったおふくろの味に職員と一緒に、したづつみを打った。	
41			栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は一週間ごとに作成し、バランスよく摂取できるようにして、食事や水分の摂取量を毎日記録している。摂取状態を常に把握し、粥やきざみ食などその時の力に応じて支援している。		
42			口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外出から戻ったら、手洗い、うがいの声かけをしている。朝晩の歯磨きも欠かさず声かけし、力に応じて支援している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンに変化のある方の排泄パターンを把握し、パットの大きさ、紙パンツ、布パンツと細かな調節をしている。失敗してもトイレへ行く習慣を維持できるよう支援している。	本人のプライドを傷つけないように、スムーズな排泄支援を行うため、排泄チェック表を導入し、トイレでの排泄を大切にしながら、本人に合わせ紙パンツも検討している。便秘の予防・対応についても個別に工夫している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックをし、食物繊維の多い食材を摂り、毎日の運動を心がける等、便秘の予防に取り組んでいる。必要に応じて排便の声かけを行っている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は各自のペースで行い、決して焦らせることなく家庭にいる時のようにゆっくり楽しんでもらっている。時間帯は職員のスケジュールにより決められているが要望があれば夜間入浴にも応じている。	入浴を拒む方が多く、言葉かけや対応を工夫しながら週に2～3回は入浴できるように支援している。下半身の清潔には特に配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は掃除、体操、散歩と活動的に過ごし、午後は思い思いの自由な時間を持ち休息できる。居室では他者と係ることなく休息できるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、副作用については、薬の説明書により各自確認し、理解できている。一人ひとりに薬を手渡し、完全に飲んでしまうまでの確認を行い、随時、症状の変化を観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除、レクリエーション等の中に個々に合った役割を持ってもらい、都度感謝の気持ちを表し、成果を称えている。嗜好品は自宅にいるようにはいかないが、職員が管理して提供し、楽しんでもらっている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿うまではできないが、できるだけ戸外の空気に触れられるよう、散歩を日課にし、月数回の外食喫茶を実行している。また、家族にも協力を得て、外出の機会を作ってもらっている。	外出支援は家族からの要望も多く、積極的に取り組んでいる。散歩は日課として行っており地域とのつながりも強くなっている。日常的に外出できるように、家族の協力を得たりしながら、常に工夫している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じ、買い物に同行し、支払いまで支援している。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ後は、居室で自由に電話していただけるように配慮し、プライバシーの保護にも努めている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物や手作り作品により季節感を感じていただけるよう工夫している。	木漏れ日のような日差しが入る居間に続き、樹齢200年の楠や井戸もある庭には洗濯物が干してある。利用者は自宅の延長として毎日、掃除などを手分けして行い、自分たちの力で居心地よく過ごすという意識を持っている。美的センスもよく家族からも喜ばれている	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテーブル、ソファなどを利用し、各自の座る場所を決めず、自由に席を選んでいただき、利用者同士の交流が深められるようにしている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では個々の思いのものや家具などが配置され、一人ひとりの感覚や価値観を大切にしている。	ゆったりとした広さもある居室は、整理整頓も行き届き、畳のスペースや、使い慣れたタンス、鏡台、家族の写真等、思い出の品々が持ち込まれ、それぞれ温かく、落ち着いた雰囲気をかもし出している。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、リビングには手すりを設置し、居室内では少し手を伸ばせば灯りがつけられるようにしている。身体能力に応じ、椅子を使い分け、テーブルの周りには広い空間を作っている。		